

Japan Education Community (JEC)

大学における生成 AI 活用ガイドライン

ver.1.0 2026 年

本ガイドラインは、Japan Education Community (JEC) が大学現場の CIO・情報システム担当者の知見をもとに作成した共通フレームワークです。文部科学省・NII の既存ガイドラインを補完し、各大学がすぐに活用できる実践的な指針とチェックリストを提供します。

japan-education-community.org

議論用ドラフト 無断転載禁止

第1章 はじめに

■ 1.1 本ガイドラインの目的

生成 AI の急速な普及により、大学における教育・研究・業務のあり方が大きく変化しつつあります。各大学では独自のポリシーやガイドラインの整備が進んでいますが、現場担当者が参照できる共通のフレームワークが十分に整備されていないのが現状です。

本ガイドラインは、Japan Education Community (JEC) が大学の情報系 CIO・情報システム担当者の実務知見をもとに作成した共通指針です。各大学が自学のポリシー策定・見直しの際に参照できる実践的なフレームワークとチェックリストを提供することを目的とします。

■ 1.2 既存ガイドラインとの関係

本ガイドラインは以下の既存ガイドラインを補完するものであり、置き換えを意図するものではありません。

- ・ 文部科学省「大学・高専における生成 AI の教学面の取扱いについて（周知）」（2023年）
- ・ 文部科学省「初等中等教育段階における生成 AI の利活用に関するガイドライン Ver.2.0」（2024年12月）
- ・ 各大学が独自に策定した AI 利用ポリシー

JEC は、上記ガイドラインでカバーされていない「大学の情報システム・CIO 視点での実装レベルの指針」を提供することに注力します。

■ 1.3 JEC について

JEC は、教育 DX・AI・セキュリティ・教育 CIO・大学 CX の 5 領域を活動の柱とする大学情報担当者のコミュニティです。本ガイドラインは、JEC メンバーによる議論・合意形成を経て公表されます。特定ベンダーや製品の推奨を意図するものではありません。

第2章 大学における生成 AI 活用の現状と課題

■ 2.1 各大学の対応状況

2023年以降、国内の大学では生成 AI に関するポリシー・ガイドラインの策定が急速に進んでいます。一方で、以下のような課題が共通して観察されます。

- ・ポリシーの内容・レベルが大学によって大きく異なる
- ・教員・職員・学生向けで分断されており、全学的な整合性が取れていない場合がある
- ・技術・セキュリティ面の実装指針が不足している
- ・ポリシーが策定されても現場への周知・運用が伴っていないケースがある
- ・継続的な見直しサイクルが確立されていない

■ 2.2 共通課題の整理

JEC メンバーの現場経験を踏まえ、大学における生成 AI 活用の共通課題を以下のとおり整理します。

領域	主な課題
セキュリティ	学内データ・個人情報の外部 AI 送信リスク、シャドーAI（未承認ツール）の利用実態把握
著作権・倫理	生成 AI が生成するコンテンツの著作権帰属、学術不正の定義と境界線
公平性	AI ツールへのアクセス格差（デジタルデバインド）、評価の公平性確保
ガバナンス	責任主体の不明確さ、CIO・教学・事務の連携体制の未整備
リテラシー	教員・職員・学生の AI リテラシーの差、研修体制の未整備

第3章 基本原則

本ガイドラインが拠って立つ基本原則を以下のとおり定めます。各大学のポリシー策定においても参照することを推奨します。

原則① 人間中心・教育目的中心

生成 AI はあくまで人間の判断・創造・学習を支援するツールです。教育の本質である思考力・表現力・批判的思考力の育成を損なわないよう、活用の目的と範囲を明確にします。

原則② セキュリティ・個人情報保護

学内データ・個人情報・機密情報を生成 AI ツールに入力しないことを基本とします。利用するツールのデータ保持ポリシーを確認し、適切なツール選定・利用環境の整備を行います。

原則③ 透明性と説明責任

生成 AI の利用目的・範囲・ルールを教職員・学生・保護者等の関係者に明示します。生成 AI が関与したコンテンツには適切な表示を求めます。

原則④ 公平性の確保

AI ツールへのアクセス機会を可能な限り均等にします。デジタルデバイドや評価の公平性に配慮し、AI を利用しない選択肢も保障します。

原則⑤ 継続的な見直し

AI 技術・社会環境・法制度は急速に変化します。本ガイドラインおよび各大学のポリシーは定期的に見直し、常に実態に即した内容に更新します。

第4章 活用場面別ガイダンス

■ 4.1 教員による授業設計・教材作成

教員が生成 AI を活用する場面として、授業設計・教材作成・採点補助などが想定されます。

【推奨される活用例】

- ・ シラバス・授業計画のたたき台作成
- ・ 課題・小テストの問題案生成（教員が内容を確認・修正のうえ使用）
- ・ 学生へのフィードバックコメントの補助
- ・ 多言語対応（留学生向け説明文の翻訳支援）

【注意事項】

- ・ 学生の個人情報・成績データをプロンプトに含めない
- ・ AI が生成した内容は必ず教員が確認・修正する
- ・ 採点の最終判断は人間（教員）が行う

■ 4.2 学生の学習・レポート作成

学生が生成 AI を利用する際のルールは、各授業・科目の担当教員が判断します。全学共通の最低限のルールとして以下を定めます。

- ・ 生成 AI の出力をそのままレポート・課題として提出することは原則として認めない
- ・ 生成 AI を利用した場合は、その旨と利用方法を明記する
- ・ 生成 AI の出力は必ず批判的に検討し、事実確認を行う
- ・ 個人情報・機密情報をプロンプトに含めない

■ 4.3 事務職員の業務効率化

事務職員が生成 AI を活用する際の基本方針を以下のとおり定めます。

- ・ 議事録作成・文書要約・メール文案作成等の補助ツールとして活用可
- ・ 機密文書・個人情報を含むデータの入力禁止
- ・ 大学が承認したツール・環境のみ使用する（シャドーAI 禁止）
- ・ 生成された内容の最終確認・責任は人間が持つ

■ 4.4 大学経営・意思決定支援

経営層・管理職が生成 AI を活用する際には、以下の点に特に注意します。

- ・ 財務・人事・契約に関する機密情報の入力は厳禁
- ・ AI の分析・提案はあくまで参考情報であり、意思決定の責任は人間が持つ
- ・ ベンダーロックインを避けるため、複数ツールの比較検討を推奨

第5章 導入・運用プロセス

■ 5.1 ガバナンス体制の整備

生成 AI 活用に関する意思決定・責任体制を明確にします。

- ・ CIO（または相当の情報担当責任者）を中心とした全学的な推進体制を設置する
- ・ 教学・事務・情報システム部門が連携した横断的なワーキンググループを設置する
- ・ AI 活用ポリシーの策定・更新・周知の責任部門を明確にする

■ 5.2 ツール選定の考え方

大学として承認する AI ツール・環境を選定する際の基本的な考え方を示します。

- ・ データの取り扱いポリシー（学習利用の有無・保持期間等）を必ず確認する
- ・ テナント分離・閉域環境での利用を優先する
- ・ 既存の認証基盤（SSO 等）との連携可否を確認する
- ・ コスト・サポート体制・継続性を総合的に評価する

■ 5.3 教職員リテラシー向上

- ・ 全教職員を対象とした AI リテラシー研修を年 1 回以上実施する
- ・ 利用事例の共有・勉強会をコミュニティ形式で継続的に実施する
- ・ 学生向けの AI 活用教育をカリキュラムに組み込むことを検討する

■ 5.4 継続的な見直しサイクル

- ・ ポリシーは年 1 回以上の定期見直しを行う
- ・ 重大な技術変化・法制度変化があった場合は臨時に見直す
- ・ JEC ガイドラインの更新情報を参照し、自学ポリシーに反映する

第6章 チェックリスト

本チェックリストは、大学の生成 AI 活用における準備状況を確認するためのツールです。3層構造（戦略層・運用層・利用層）で構成されています。

■ 6.1 戦略層チェックリスト（CIO・経営層向け）

	確認項目	補足・参考
<input type="checkbox"/>	全学的な AI 活用方針（ポリシー）が策定されているか	文書化・公開が望ましい
<input type="checkbox"/>	AI 活用の責任者・推進体制が明確になっているか	CIO 相当の責任者を設置
<input type="checkbox"/>	承認する AI ツール・環境のリストが整備されているか	シャドール AI 対策として重要
<input type="checkbox"/>	ポリシーの定期見直しサイクルが設定されているか	年 1 回以上を推奨
<input type="checkbox"/>	教職員・学生への周知方法が確立されているか	入学時・採用時オリエンテーション等
<input type="checkbox"/>	データ保護・セキュリティ観点でのツール評価基準があるか	個人情報保護法等を考慮
<input type="checkbox"/>	AI 活用の効果測定・評価の仕組みがあるか	KPI の設定を推奨

■ 6.2 運用層チェックリスト（教員・職員向け）

	確認項目	補足・参考
<input type="checkbox"/>	担当授業・業務での AI 利用ルールを明確にしているか	シラバス等への記載を推奨
<input type="checkbox"/>	学生・部下への AI 利用ガイダンスを実施しているか	利用可否・利用方法の明示
<input type="checkbox"/>	AI の出力を人間が必ず確認・修正しているか	ハルシネーション対策
<input type="checkbox"/>	個人情報・機密情報を AI に入力していないか	大学承認外ツール利用も含む
<input type="checkbox"/>	AI が関与したコンテンツに適切な表示をしているか	透明性確保のため
<input type="checkbox"/>	大学が承認したツール・環境のみ使用しているか	シャドール AI 禁止の遵守
<input type="checkbox"/>	AI リテラシー研修を受講しているか	年 1 回以上の受講を推奨

■ 6.3 利用層チェックリスト（学生・日常利用向け）

	確認項目	補足・参考
<input type="checkbox"/>	担当教員の AI 利用ルールを確認しているか	授業ごとに確認する
<input type="checkbox"/>	AI の出力をそのまま提出物として使用していないか	学術的誠実性の観点から
<input type="checkbox"/>	AI 利用を行った場合は適切に明記しているか	利用方法・利用範囲を記載
<input type="checkbox"/>	AI の出力内容の事実確認を行っているか	情報の批判的評価
<input type="checkbox"/>	個人情報を AI に入力していないか	自分・他者の個人情報を含む
<input type="checkbox"/>	著作権を侵害するコンテンツの生成・利用をしていないか	著作権法を遵守

第7章 事例紹介

■ 7.1 事例掲載について

本章では、JEC メンバー大学および関連機関における生成 AI 活用の先行事例を紹介します。事例は随時追加予定です。実名掲載については各機関の承諾を得て掲載しています。

■ 7.2 今後の事例追加予定

JEC メンバー大学から、以下の領域での事例収集を進めています。

- ・ Microsoft 365 Copilot 導入事例
- ・ シャドーAI 検知・可視化の実装事例
- ・ 学生向け AI リテラシー教育の取り組み
- ・ 事務 DX における生成 AI 活用事例

第付章 改訂履歴・問い合わせ先

バージョン / 日付	主な変更内容
ver.1.0 2026年	初版作成 (JEC メンバー議論ドラフト)

【問い合わせ先】

Japan Education Community (JEC)

Web: japan-education-community.org

本ガイドラインは JEC メンバーとの議論・合意形成を経て公表されます。内容に関するご意見・ご指摘は JEC 公式サイトよりお寄せください。本ガイドラインの一部または全部を転載・引用する場合は出典を明記してください。